

Title	辨慶橋の擬寶珠銘
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1924
Jtitle	史学 Vol.3, No.3 (1924. 9) ,p.16(359)- 16(359)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19240900-0016">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19240900-0016</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 辨慶橋の擬寶珠銘

赤阪見附を通る人は東都名所の一たる辨慶橋を見るであらう。其の橋に左右五個づゝ合計十個の擬寶珠があるが、其の中九個は在銘のものである。電車通より數へて左右の二番四番には「正徳元歲卯七月吉日、筋違橋、鑄物御大工、椎名伊豫重休」とあり、左右の三番には「正徳元歲卯六月吉日、淺草橋、御鑄物師、矢部豐前重政」とあり、左の一番五番には「萬治三庚子年二月吉日、御鑄師、傳(?)銅意法橋、同子渡邊近江大掾、源正次」とあり此等の中最も古く二百六十餘年前のものである。(一番の方には傳(?)見えず)又右の五番には「御大工、椎名兵庫、吉綱」とある。

右の筋違橋は江戸名所圖會に「須田町より下谷への出口にして神田川に架す」と見え、今の萬世橋のまゝである。又淺草橋は同圖會に「神田川の下流淺草御門の入口に架す」と見え、今の淺草橋である。

猶序に記しておくが、同圖會には辨慶橋が見えて居るが、それは「和泉橋の通藍染川の下流に架す、其始御大工棟梁辨慶小左衛門といへる人の工夫によりて懸初しといへり、此地の形に應じ衢を横切て筋替にかくる尤奇なり」と記してあり、今の橋とは異なるものである。(武田勝藏記)